

令和元年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果(市の概要)

令和2年3月27日
鹿兒島市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ア 国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会が、自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ウ 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

(2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数(校)			実施児童生徒数(人)		
		本市	県	全国	本市	県	全国
小学校	5学年	78	512	19,165	5,546	14,887	1,038,143
中学校	2学年	39	225	9,359	4,755	13,338	903,219

本調査は、平成20年度から希望校により開始され、小・中学校の希望校の合計は、初年度72校、21年度83校であった。22年度は抽出による22校、23年度は震災のため中止、24年度26校で実施した。25年度から全校が対象となった。

(3) 調査事項

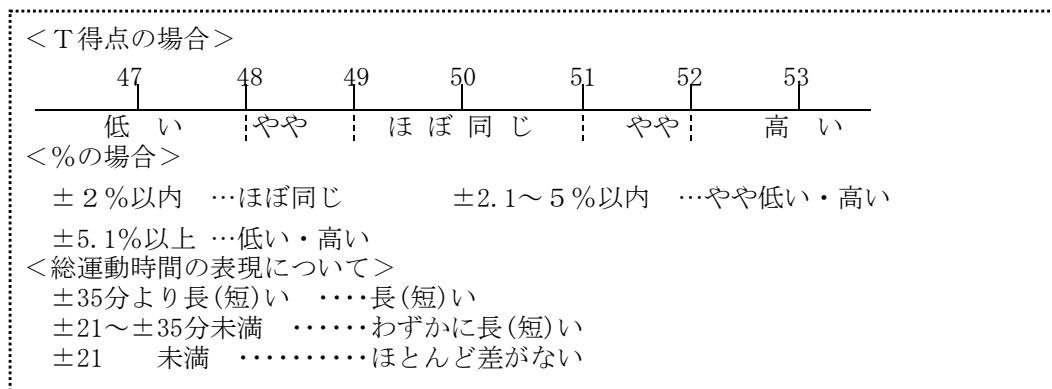
- ア 児童生徒に対する調査
 - (ア) 実技に関する調査(測定方法については、新体力テストと同様)
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ(小学校)、ハンドボール投げ(中学校)
 - (イ) 質問紙調査
運動習慣、生活習慣等
- イ 学校に対する調査
 - (ア) 質問紙調査(子供の体力の向上に係る学校の取組等)

(4) 調査期間

平成31年4月から令和元年7月末までの期間

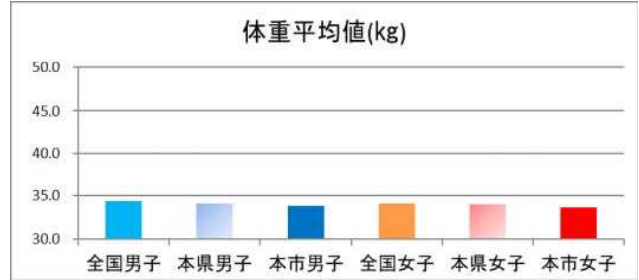
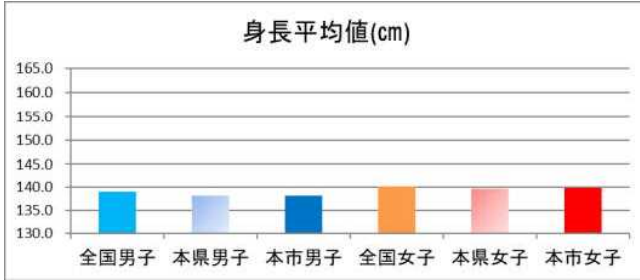
2 調査結果の概要(詳細については、調査まとめ「別紙1～5」を参照)

- ※ T得点とは「全国平均(50とする)に対する相対的位置」を示す。(T得点=偏差/標準偏差)
- ※ 全国平均等との比較は、以下を基に表現する。

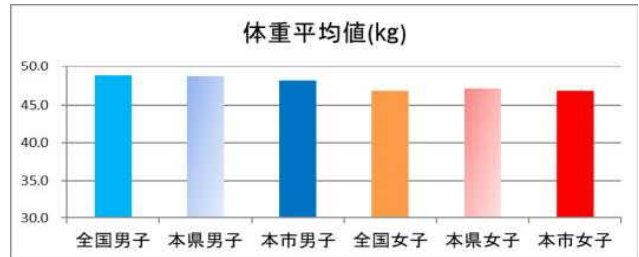
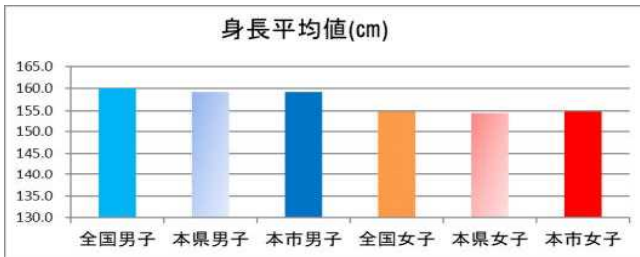


(1) 体格について

ア 小学校の状況



イ 中学校の状況

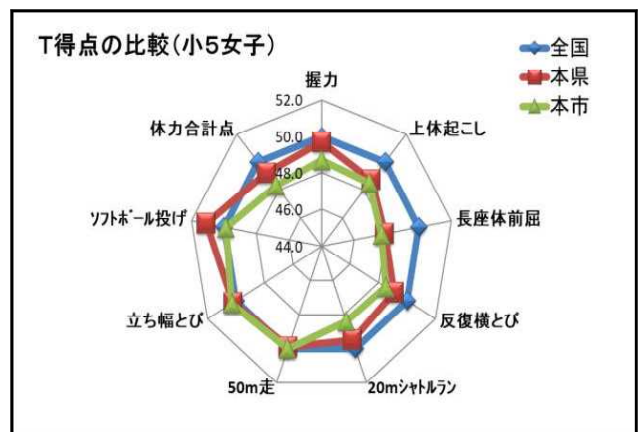
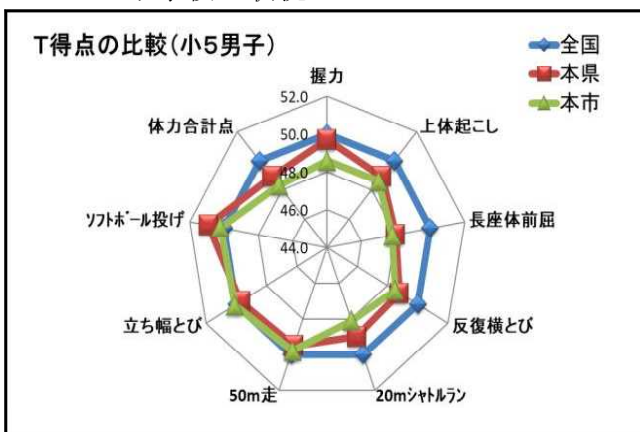


【全国平均との比較】

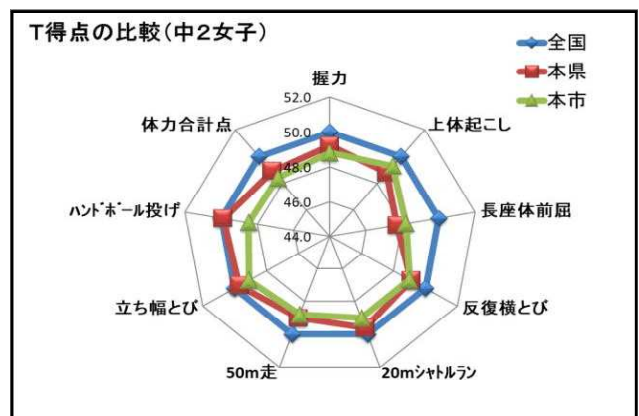
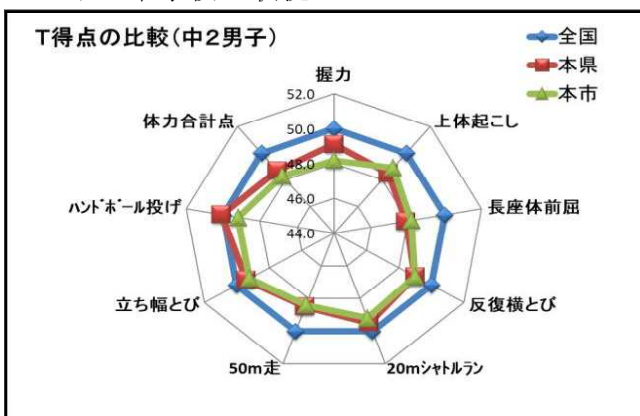
小学校の体格は、男子は身長がやや低く、男子の体重、女子の身長、体重はほぼ同じである。
 中学校の体格は、男子・女子の身長、体重共にほぼ同じである。

(2) 体力について

ア 小学校の状況



イ 中学校の状況



【全国平均との比較】

小学校の体力は、男女の50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げはほぼ同じであるが、その他の種目についてはやや低く、特に男女の長座体前屈が低い傾向にあることから、体力合計点は男女共にやや低い。
 中学校の体力は、男女の反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびと男子のハンドボール投げ、女子の上体起こしはほぼ同じであるが、その他の種目についてはやや低い傾向にあることから、体力合計点は男女共にやや低い。

(3) 運動習慣等について

ア 「運動が好き（やや好きを含む）」と思う割合



【全国平均との比較】

運動やスポーツをすることが「好き」「やや好き」と回答した割合は、小学校と中学校男子が約9割、小学校と中学校女子は約8割で、ほぼ同じである。

イ 体育の授業は楽しい（ややそう思うを含む）」と思う割合



【全国平均との比較】

「体育の授業は楽しい（ややそう思う）」と回答した割合は、小学校が9割、中学校が8割で、中でも小学校男女と中学校女子はほぼ同じであるが、中学校男子は、やや低い傾向にある。

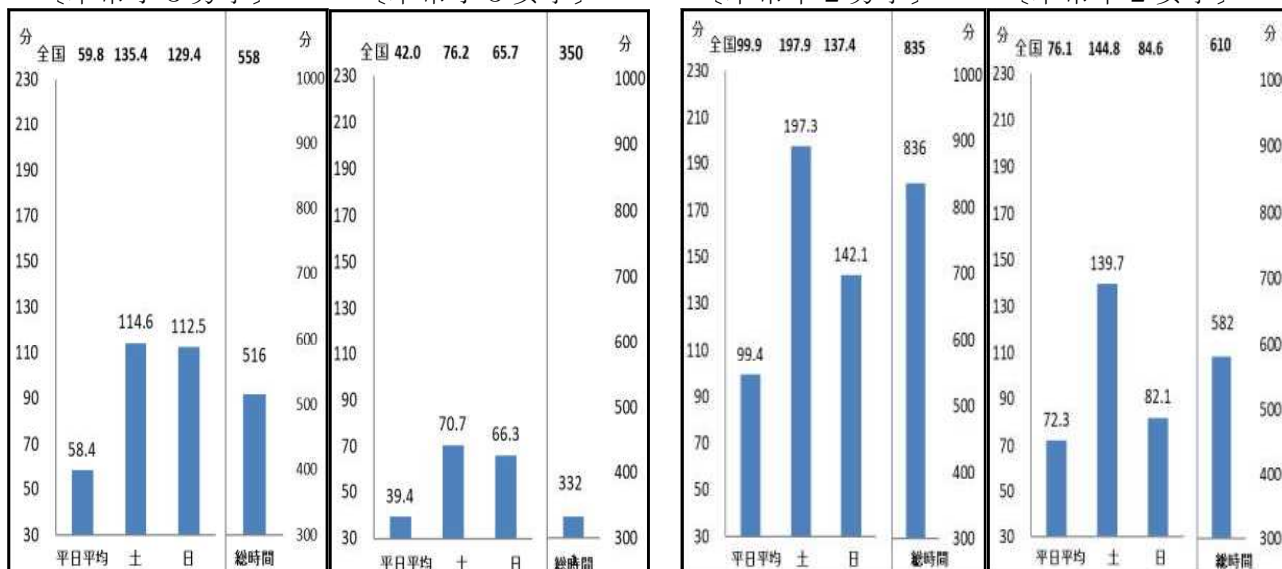
ウ 1週間の総運動実施時間（「体育の授業以外で、運動やスポーツを1日で何分くらいするか」）

〔本市小5男子〕

〔本市小5女子〕

〔本市中2男子〕

〔本市中2女子〕



【全国平均との比較】

1週間の総運動実施時間は、小学校男子は短く、小学校女子と中学校男女はほとんど差がない。

平日平均は、小学校、中学校共にほとんど差がない。

土曜日、日曜日は、小学校男子は短く、小学校女子と中学校男女はほとんど差がない。

(4) 体力の現状と課題について

体力合計点を全国平均と比較すると、小学校、中学校共にやや低い傾向にある。

種目別では、小学校は男女の50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げが全国平均とほぼ同じである。しかし、その他の種目は全国平均よりやや低く、中でも男女の長座体前屈と反復横とびは、ここ数年、T得点が48以下であり、体の柔らかさと素早さを改善することが課題である。また、中学校は男女の反復横とび、20mシャトルラン、立ち幅とびと男子のハンドボール投げ、女子の上体起こしは全国平均とほぼ同じである。しかし、その他の種目は全国平均よりやや低く、中でも男女の長座体前屈はT得点48以下で、体の柔らかさを改善することが課題である。

運動習慣等について、体育の授業を除く1週間の総運動実施時間が、全国平均と比較して小学校男子は短く、小学校女子と中学校男女はほとんど差がない。また、「運動やスポーツをすることが好き」や「体育の授業が楽しい」と回答した割合は、小学校が概ね9割、中学校が8割で、全国平均とほぼ同様の傾向にある。

3 今後の対策等

(1) 学校の取組について

- ア 自校の実態把握を基に課題を明確にし、その改善を図る方策を盛り込んだ体力向上全体計画・指導計画の見直しを行う。
- イ 小・中学校における共通の課題である体の柔らかさの改善を図る取組を補助運動等で継続的に実践する。また、自校の課題となる体力要素の向上に取組む「ちょトレ」（ちょっとしたトレーニング）運動において、特に小学校では、体力アップ作戦「一人で！二人で！サッサッ」への取組みを推奨し、課題である素早さの向上を図る。
- ウ 体育の授業では、体力合計点と相関が見られる活動（3つのポイント：めあての提示、課題解決的な学習、振り返りの活動の設定）を明確に位置付ける。また、児童生徒が主体的に学び合う活動等の中で、運動の特性に触れたり、技能の向上が図られたりする経験を通して、運動好きな児童生徒を育成する。
- エ 世界保健機関(WHO)や多くの国々が推奨する1日60分以上の身体活動への手立てとして、「一校一運動」や「チャレンジかごしま」などの活動を取り入れていく。
- オ 鹿児島県体力診断プログラム「体力ナビ」を活用し、児童生徒一人一人の課題を基にした「個人カルテ」を作成し、児童生徒の主体的・継続的な運動の実践を推進する。
- カ 運動を取り入れた生活習慣の定着を図るために、生活リズムや望ましい食習慣、睡眠などと関連させて、教育活動全体を通して指導していくとともに、家庭への啓発を図る。
- キ 本調査結果等について家庭との共有に努め、土曜日や日曜日の戸外等での遊びや親子等での運動への取組みを推奨する。

(2) 教育委員会の取組について

- ア 体力テストの実施を継続し、実態の把握、課題解決に向けた方策の具体化と継続した取組を推進する。
- イ 体育実技研修会等において、授業改善の視点にもとづいた具体的な取組みについて共有し、授業の改善を図る。
また、県が推奨する「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組みや申告を積極的に推進していく。
- ウ 「体力向上」研究協力校(星峯中学校)の実践内容や研究成果等について、市内小・中学校による自校化、体育授業への講師招聘などにより指導力の向上を図る。